



# 職場の闘いと護憲を一体のものとして！



安倍首相は集団的自衛権行使容認に向け、閣議決定を今国会中にと動きを加速させている。「最高責任者は私だ」と、立憲主義を否定する暴走政権が、過去の侵略戦争への反省もなく、それほどまでに戦争ができる国にしたいのは何故なのか。誰のためなのか！

必要最小限と言いつつアリの一穴から武力行使が拡大、憲法9条が骨抜きにされていく危惧が強くなるばかりである。国家権力が強化され、国民主権、平和主義が危うくなる。またも、労働者・国民、子どもや孫たちが戦闘に駆り出され、犠牲になることが無いように、職場、地域からどんな小さなことからでも声を上げていく、行動をおこしていくことが大切だ。

私は、医療・介護職場を定年退職後も職場労組に所属しているが、今、職場で問題になっているのは、管理者による人間の

尊厳を傷つけるようなバワハラ発言！ それは単に発言にとどまらず、雇用そのものを脅かすところまで直結する。経営は、「赤字を武器に人件費削減」をかざしてどんな小さなスキからでも徹底して自己責任を追及してくる。黙っていれば、気持まで支配され不当な自己解決に陥ってしまう。ものが言えない職場へと負の連鎖で職場が支配されてしまう。労組は働く仲間の声を聴きながら、一緒に声をあげよう！ と団交で闘っている。

そして、上部団体である全労協全国一般東京労組のフジビグループ分会（偽装倒産で社員全員解雇し、同時に組合潰しの狙いは明らか）の仲間やJALの不当解雇撤回を求める仲間への共闘、沖縄の復帰42年を迎えた平和行進にも2名の仲間が参加してきた。日常の職場の闘いと壊憲を許さない闘いを一体ものとして取り組みながら、仲間を広げていきたい。

『月刊まなぶ』

企画編集委員 高原 康子